

「アートに疑問を持つことについて」

芸術作品を理解するためには、まず受け入れることが大切であり、そうすれば、自ずと作品は理解できるものだと思っていました。しかし、福のり子さんの講習を受け、アート作品の見方とは、疑問を持つことから始まることを学びました。作品をじっくりみて考えること、その考えをグループで共有し、お互いに刺激しあいながら作品とのコミュニケーションを深め、作品を「知る」こと。私たちは、普段多くのことをわかったつもり、理解したつもりでいます。そういった考えにすら疑問をもたせてくれるほど、今回の福さんと伊達さんの講習は刺激的でした。

札幌芸術の森美術館では、小学5年生を対象にしたプログラム、「ハロー！ミュージアム」を行っています。このプログラムに参加している小学生たちは、作品を鑑賞するというよりは、先生の求める答えを想像して、褒めてもらえるような言葉を選んで感想文を書いていました。義務教育をたった5年受けただけで、こうなるのかと、私はショックを受けました。けっして、義務教育が悪いとはいいたい訳ではありません。でもこれからは、アート作品に触れることで、様々な考えやものの見方、コミュニケーションを子どもたちに体験してもらいたい。私は、まだまだナビゲーションは下手ですが、これから多くの子どもと一緒に作品を見て、考え、アート作品とのコミュニケーションの楽しさを知ってもらいたいと思いました。